

国語の傾向と対策

1 はじめに

埼玉県国語の入試問題の大きな特徴は、制限字数が五〇字程度の比較的分量の多い記述問題が出題されることです。配点も高く、受験生にとっては確実に得点をとりたい問題です。しかしながら、問題全体の分量が多いため、記述問題に割ける時間は限られています。一回の「読み」・「解き」で正確な答案を作成しなければならぬのです。番組では、大問一の小説の問題を題材とし、記述問題で減点されない正確な答案の書き方と、多くの受験生が苦手としている古典の読解法も紹介いたしました。ここでは、番組で紹介したポイントと簡単な練習問題を掲載します。

2 「小説問題の攻略」……二つのポイントが重要になります。

ポイント1

作業をしながら文章を読もう

「作業をしながら文章を読もう」とは、いったいどういうことなのでしょう。埼玉県の小説の問題は、心情を読みとって解答する問題が多く出題されます。全体の文章量も多いので、一回の読みで問題を解かなければなりません。そこで、文章を読むときにあらかじめ、「心情が読み取れる部分」に線を引くという作業をします。そうすることにより、問題を解くときに素早く解答のヒントになるところを探せますし、正確に問題を解くこともできるのです。

過去問や問題集などで、小説の問題に取り組むときに実践してみましよう。

ポイント2

言い換えをマスターしよう

近年の埼玉県の記述問題は、本文をそのまま引用するだけでは答えを出すことができない問題が出題されています。本文中の表現を字数制限内に収めるために、自分の言葉で短くまとめる必要があるのです。次ページより、例題を掲載しますので、チャレンジしてみましよう。

「番組で扱った問題」

問3 ③ ぐったりとうつむいて、下駄くだのつま先ばかりを眺めていた。とありますが、このときの亀乃介かめのすけの心情を次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、**違い、もどかしさ**の二つの言葉を使って、四十字以上、五十字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。

・ 通訳の疲れに加えて、初めて美術学校に行ったことで、() を感じていた。

「言い換え・例題1」

勉強なんて意味がない。それが小学生の頃の僕の口癖だった。中学生になってもその考えは変わらないと思っていた。しかしその予想はよい意味で裏切られた。苦手な数学でつまづいているときに、兄がやさしく教えてくれることがあったり、夜遅くまで勉強していたときは、母が何も言わず一緒に起きてくれることがあったりした。僕は、支えてくれる人への恩返しのために勉学に励もうと思いはじめていた。

問 本文の内容を次のようにまとめました。空欄に当てはまる言葉を二字で答えなさい。

・ 中学生になって、() の支えによって、人の優しさを知り、勉強への姿勢がよい方向へと変化していた。

「言い換え・例題2」

私にとって、今年の前半は最悪だった。自分の唯一の趣味である旅行がことごとくうまくいかなかったからである。春に行こうとしたときは、地震による土砂崩れで交通規制がかかり、延期になるし、夏に行こうとしたときは、台風のせいで飛行機が飛ばずに延期になった。何か悪いことをしたというのか。まったくやるせないよ。

問 本文の内容を次のようにまとめました。空欄に当てはまる言葉を四字以内で答えなさい。

・ 私は、相次ぐ() のせいで、唯一の趣味である旅行に行けず、やるせない気持ちを抱いている。

「言い換え・例題3」

僕は昔から、負けず嫌いの目立ちたがり屋だった。かくれんぼや鬼ごっこでさえとにかく勝ちにこだわった。リーダーとしてみんなの前で仕切ったり、場を盛り上げるために笑いをとったりするのも得意だった。しかし、いいことばかりではなく、失敗も多かった。負けたときに、負けを認めずに喧嘩になったことも多かった。今思い返すと、周りの人には迷惑をかけてしまっていたと反省することばかりだ。今は、周りの人と楽しく過ごせることを目標にして、日々成長していこうと思っている。

問 本文の内容を次のようにまとめました。空欄に当てはまる言葉を二字以内で答えなさい。

・僕は、自分の() の長短に気づいて反省することで、自分の成長の目標を見出している。

「言い換え・例題4」

「大会も近いから、明日から朝練習を行う。ただし、明日の朝練習は、自由参加でいいぞ。いやいや参加してもらってもチームの指揮が下がるだけだからな。」

先生はそう言い放った。朝練習自体にはキャプテンである僕は賛成だった。しかし、そんな言い方でみんな来るのかよと納得がいかない部分もあった。当然その日の放課後は、頑張りたいという人と、面倒だという人が五分五分くらいだった。本当に意味があるのかな……

次の日、六時にグラウンドに踏み入れた僕はその光景に、驚愕した。昨日は行かないといっていた人も含めて全員の姿がそこにあつたからだ。後々聞いたところ、山田先生が不参加になりような人たちに電話をし、本人達をやる気にさせたいらしい。全員参加ということもあつてその日の練習へのみんなの気持ちの入れ方が違い、かなりチームの志気がたかまつた。まったく先生には頭が上がらない。

問 本文の内容を次のようにまとめました。空欄に当てはまる言葉を二字以内で答えなさい。

・生徒たちの朝練習への参加に対する（ ）の差を、あらかじめ想定して行動した山田先生の生徒に対する理解の深さに上がらないでいる。

□ 解答例

「例題1」 家族

「例題2」 天災

「例題3」 性格

「例題4」 意欲

3 「古典の攻略」……以下のポイントが重要になります。

ポイント

作業をしながら文章を読もう

問いに答えるときに、本文（文語）のどこを見ればよいかを素早く判断できるように、作業をしながら文章を読みます。具体的内容は二つです。一つは、『人物』を○で囲みながら読む」ということです。埼玉県埼玉県の古典は人物に関する問題が多く出題されます。今年の問題では、「相模守時頼」と同じ人物を抜き出しなさいという問題が出題されています。あらかじめ「人物」を○で囲むことにより、問題が解きやすくなるのです。その際同一人物は線で結んでおくと、より内容が分かります。

二つ目は、『動作』に線を引きながら読む」ということです。口語訳も利用しながら、動作や状態の変化を表す言葉があつたら線を引きながら読み進めます。このような作業をしておくことで、「誰が何をした、どうした」ということが格段にみやすくなり、問いに答える時間、文章の大意を把握する時間を短縮することができます。

「古典・例題」 作業をしながら文章を読んでみよう。

ある男、わなをかけて鹿をとりけるほどに、ある日大鹿かかりたりけり。この男思ふやう、かかる大鹿をわなにかけてとりたらんは無念なれば、弓にてぞとりたるといひて、弓の上手じやうずのよし人に聞かせんとて、わなにかかりたる鹿にむかひて、矢をつがへて射たりけり。その矢、鹿にはあたらずして、わなにむすびたるかづらにあたりければ、かづら射切られて、鹿はことなく、はしりにげてゆきにけり。この男、頭搔かしがきをすれども、さらにえきなし。（『古今著聞集』より）